

ときを越え
受け継がれるもの

伊手熊野神社蘇民祭

江刺区伊手字角屋

裸の男と炎のまつりとして知られる蘇民祭は市内3カ所で行われる。その一つが伊手熊野神社蘇民祭だ。400年以上前に凶作や疫病などに苦しんだ人々が、黒石寺の蘇民祭を手本に始めたと伝わる。参加者の減少から昭和35年に中断されたが、45年に復活して隔年で開催。50年からは上伊手地区だけでなく伊手全域の祭りとなって、毎年開催されている。

午後6時ごろに始まる祭りは、ご膳上げ、四角のぼり、火たき登り、別当及び袋登り、鬼子登りとテンポよく進み、11時半ごろにクライマックスの蘇民袋争奪戦を迎える。拜殿の中、境内、水田と舞台を移しながら、裸の男たちは「取主」と呼ばれる袋の口前をつかんだ者になると、蘇民袋へと手を伸ばして激しい争いを繰り広げる。祭りは1月第3土曜日に開催される。ぜひ、この迫力を肌で感じてほしい。



1 祭りの象徴である「火たき登り」。歳戸木と呼ばれる丸太を3m以上井桁に積み、火をつける。裸の男たちはその上で火の粉と煙を浴び身を清める 2 熊野神社拜殿。ことしもここから蘇民袋の争奪が始まる 3 蘇民袋争奪戦の途中で蘇民袋は切り開かれ、中の小間木(蘇民将来の護符)がまかれる。裸の男たちだけでなく観衆も押し寄せ、宙を舞う小間木(写真中央)に手を伸ばす

広告

